岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議開催状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 回 | 日　時 | 内　容 |
| 第１回 | ６月30日（火）13：15～15：00 | 委嘱書交付国・県・市の動向・人口動態説明 |
| 第２回 | ７月 ８日（水）13：00～15：00 | 国・県等の関係機関の取組状況地方創生に関する自由な意見交換 |
| 第３回 | ７月22日（水）13：00～15：00 | 地方創生に関する自由な意見交換「しごと」に関する意見交換　・岡谷市工業活性化計画について |
| 第４回 | ８月７日（金）13：00～15：00 | 「しごと」に関する意見交換「ひとの流れ」に関する意見交換　・観光、岡谷ブランドについて |
| 第５回 | ８月26日（水）10：00～12：00 | 「ひとの流れ」に関する意見交換・移住・交流について「結婚・妊娠・出産・子育て・教育」に関する意見交換　・第３次岡谷市児童育成計画について |
| 第６回 | ９月30日（水）15：00～17：00 | 「結婚・妊娠・出産・子育て・教育」に関する意見交換「安全・安心な暮らし」に関する意見交換　・岡谷市民病院、第２次岡谷市健康増進計画について岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）について |

　会場：市役所９階大会議室

|  |  |
| --- | --- |
|  | **岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員** |
|  |  |  |  | （敬称略） |
|  |  |  |  |  |  |
| 1 | 産 | 小口　泰史 | （ | 岡谷商工会議所 | ） |
| 2 | 産 | 早出　隆幸 | （ | 岡谷市金属工業連合会 | ） |
| 3 | 産 | 笠原　新太郎 | （ | 岡谷市商業連合会 | ） |
| 4 | 産 | 中村　文明 | （ | 岡谷市観光協会 | ） |
| 5 | 産 | 中村　麻紀 | （ | 東日本旅客鉄道株式会社岡谷駅 | ） |
| 6 | 官 | 浅井　秋彦 | （ | 諏訪地方事務所 | ） |
| 7 | 官 | 大畠　一洋 | （ | 岡谷労働基準監督署 | ） |
| 8 | 官 | 花岡　欣二 | （ | 諏訪公共職業安定所 | ） |
| 9 | 学 | 中山　昇 | （ | 信州大学工学部 | ） |
| 10 | 学 | 小池　良彦 | （ | 長野県岡谷工業高等学校 | ） |
| 11 | 金 | 小山　智 | （ | 八十二銀行岡谷支店 | ） |
| 12 | 金 | 小野　正行 | （ | 諏訪信用金庫 | ） |
| 13 | 労 | 武田　彰 | （ | ＪＡＭ　ＴＰＲ労働組合 | ） |
| 14 | 言 | 薩摩　建 | （ | 株式会社　岡谷市民新聞社 | ） |
| 15 | 言 | 伊藤　敏昭 | （ | エルシーブイ株式会社 | ） |
| 16 | 市 | 横内　敏子 | （ | 岡谷市基本構想審議会 | ） |
| 17 | 市 | 久保　寛男 | （ | 岡谷市区長会 | ） |
| 18 | 市 | 太田　博久 | （ | 岡谷市民憲章推進協議会 | ） |
| 19 | 市 | 小林　伊奈子 | （ | 岡谷市保育園保護者会連合会 | ） |
| 20 | 行 | 今井　竜五 |  |  |  |
| 21 | 行 | 中田　富雄 |  |  |  |
| 22 | 行 | 宮澤　昇 |  |  |  |

有識者会議意見要旨

基本戦略１

＜産業＞

・開発・設計系の「サテライトオフィス」誘致。

・信州は広く、土地も安い。Ｉターンの人気も高いので、チャンスがある。

・家賃や固定資産税の一部補填、繰延などの施策。

・加工業をはじめとした、日本で有数の多業種の集積を強みとして活かすことが必要。

・事業承継と経営が思うようにいかない企業への経済面の支援。

・制度資金など行政のバックアップ。

・技術は10年周期で変わることを前提に、産業の開発、産業の発展を考える必要がある。

・新しいニーズ、技術や商品の変化を捉えながらシーズ＝技術を活かすものづくり。

・自社で作り、自社で価格設定のできる自発的なものづくりへの仕組みづくり。

・持続可能なエネルギーの開発。

・宇宙開発にむけたものづくりやロボット産業により、岡谷市のイメージアップ。

・新しい起業家と事業承継に悩む企業を結び付けて、岡谷の技術、生産設備を次代に残す。

・岡谷の企業の高い技術力、製造力を宣伝する。

・岡谷は面的な事業、工場の拡張が難しい。土地を有効に使えるよう対応していただきたい。

＜人材育成・確保＞

・10年先を捉えるためには、ものづくりのビジネス家としての社会人教育が重要。

・幼少期より自然科学やものづくりに触れる機会、物に触り、壊し、作る体験を増やす。

・商業・工業、体験を通して、仕事に関する喜びを教える。

・ものづくりに興味をもつ若者を増やし、誇りをもって働ける地域。

・年間20～30日インターンシップができるシステム。

・幼少期より「自然科学」や「ものつくり」に触れる機会を増やすなど、デュアルシステムの研究、導入。

・ものづくりのまちの技術を活かし、「このまちで働きたい」「自分の技術を発揮したい」という20代～30代の次代を担う人材の確保、育成。

・人材の確保を企業だけに任せず、市の職員として採用し、修士・博士課程を勉強してもらい、成長企業に配置し、企業の大きな戦力になってもらうなど大胆な発想を。

・各企業が優秀な人材を確保するため、企業に対する資格取得費の補助制度を創設。

・キャンパスを設け、企業がお金を出しても、従業員が行きたがらないのは課題。

・提案型の技術者の育成やアイディアを具現化できる体制づくり。

・若者が集うまちでないと求めている人が集まらないので、明るく近代的な若者向けの店が必要。

＜産業の連携＞

・企業単独の販路開拓のみではなく、行政や金融機関を含めて取り組む。

・自ら考えてものづくりができるネットワークづくり。

・諏訪圏域で、人口増、企業誘致、観光、商業、域外への技術の発信について連携した取組。

＜雇用＞

・岡谷市に優秀な企業が多くあることや地元の企業に興味を持てる機会を中学、高校、大学の早い段階で継続的につくる。

・都市圏へ転出した学生に対し、広報誌を発送し、将来岡谷に戻るきっかけにする。

・高校卒業後、諏訪地区に戻ってくることを条件に奨学金を用意する。

・小売業の多くは中小規模の店。今後ますます効率化を求められ、利益をあげるためには正社員の採用は難しく、非正規に頼らざるを得ない。

・大学、専門学校卒業後、パートで長く勤める若い方もいるが、収入が少なく安定しないため結婚できず、少子化にもなる負のスパイラル。

・働きたくなる職場環境、労働に見合う報酬、労働条件等を目指す企業に対して、行政からもバックアップがほしい。

・働きたくなるのは勤める人にやさしい企業。ブラック企業がないまちをつくれば、仕事も会社も労働者も増やせて、住む人も出てくる。勤めて良かったという会社をつくる。

・ワーク・ライフ・バランスがとれ、余裕を持って働ける企業体質を目指す。

・企業において子育て支援・環境の整備が必要。市としても各企業に対する支援や働きかけ、様々な子育て支援サービスのさらなる充実を図ってほしい。

・子育てで退職し、復帰された方は即戦力。子育てのあとの再就職の手助け。

・女性が働きやすい職場、条件を整えることで、人材確保につながる。

・安心して子育ての制度を活用し、いつでも安心して社会復帰できる環境をつくる。

＜理想的な企業像＞

・積極的で前向きな意識のある労働者が多くいる会社や人、労働者、地域に優しく、地域から愛され、郷土から誇りと思われる企業を育て、認定する制度を創設し、他地域へ発信する。

・労働者が生きがいを感じ、会社に尽くそうと思う職場環境。

・労働者に優しい会社に人が定着すると、本人、家族の定住率が上がる。その結果、転出者が減り、その会社に勤めようと他地域から転入者が増える。

・働いて良かった、住んで良かったと思える岡谷市になってほしい。

基本戦略２

＜岡谷ブランド・観光＞

・美しい湖畔に向けて、諏訪湖そのものをきれいにし、同時に観光客を呼び込む。

・諏訪湖の知名度を上げるため、ファンドを組成する。

・消費してもらう観光につなげるために焦点を絞った展開を。

・観光客が市内を回遊するストーリーをつくり、名産品をアピールする。

・出早雄小萩神社はアクセスが良いので、山手の遺産、古墳などにつながる遊歩道を。

・産業振興、観光、食などで近隣市町村、観光・交通関係事業者との連携。

・観光パンフレットなど多国語化の展開。インバウンドの取組を進める。

・市民のホスピタリティの向上を。

・都会の方向けにちょっとした自然、田舎などを体験できるイベント。

＜シルク＞

・シルクが新たに脚光を浴びるオンリーワンの観光を形成し、横浜や群馬、埼玉など幅広い連携。

・桑から生糸になるまで系統立った産業・ブランド育成。

・シルク、桑など機能性食品の発信。絹織物産業の誘致。

＜移住・交流＞

・地元で就職したくなる仕事、育った地域に帰りたいと思う地域をつくる。

・仕事と住居同時にＰＲ。製造業を中心に移住を進める。

・30～40代も田舎暮らし希望者が増えてきた。田舎で暮らしながら働ける場が必要。

・子育て世代に向け、安心して子育てできること、安心して病院にかかれることをアピール。

・商業と工業と観光の融合。観光を「このまちに行きたい」から「住みたい」につなげる。

・移住希望者の求める都内から鉄道で２時間での田舎生活に向け、ダイヤ編成により対応。

＜住宅・土地に関すること＞

・30代40代の移住者向けに低価格である程度の広さの家が提供できるようにする。

・空き家の利用、土地の有効活用などに注力して、市内に住める環境をつくる。

・使っていない市有地を分譲。住宅地として取得した場合は、固定資産税の減免。

＜その他＞

・ものづくりと観光のニーズ、スタイルの多様化に対応するため、広域連携・発信を。

・若者、家族が楽しめるところがほしい。

・やまびこ公園屋外演奏場へ若者のロックバンドを呼び、広い地域からの宿泊、観光につなげる。引き金となるものに対して、ある程度集中と継続を。

基本戦略３

＜結婚＞

・結婚しない人に、結婚、出産、子育てのプロセスの重要性を伝える。

・出会いから、結婚、出産、子育てについて、一連の流れで支援をしてほしい。

・組織だった結婚相談所ができないか。

・結婚していない人を結婚する方向へ、子どもを２人にする方向へもっていく。

・異性との付き合い、金銭的な面など相談できるケースワーカーの設置。

＜子育て＞

・岡谷市は安心して子育てできる環境が整っているが、その前段には結婚、出産がある。スタートとなる結婚、出産に至るまでを充実してほしい。

・不妊治療等は費用面、精神面も大変なのでサポートを。回数や上限を充実してほしい。

・出産後に不安がない環境づくりが重要。子育ての面で安心できる地域づくりが必要

・新婚家庭の家賃の支援。生活のうえで家賃は大変。結婚を推進する施策になる。

・第３子支援よりも第１子支援がまず大事。第１子の一歩を踏み出す勇気が出る支援や金銭的援助が必要。

・介護も子育ても24時間。ケースワーカーがいれば、家で相談ができ、家族以外の意見を聞いて参考にして子育てができ、子育ての不安などもなくなっていく。

基本戦略４

・人口減少により、公共の交通網の維持が難しくなり、それが人口の減少につながる負のスパイラルが起きている地域もある。岡谷市でも公共交通の維持を。

・諏訪地域は農業地域、工業地域など色々な地域があり、コンパクトにまとまっている地域。それを活用して、岡谷市内なら自転車でも移動できる安全な暮らしやすいまちをつくっていけば移住を促すときの１つの売りにもなる。

・行政だけでなく、民間の力も活用して、住民ニーズに対応した暮らしやすいまちづくりが求められる。

・ＣＣＲＣ、都会から熟年世代の地方への移住を進めるという提案がされている。将来的には介護問題、制度の根幹にもかかわってくることから、検討するに値する。

・働き盛り世代の健康、長生きのため、運動や食育に関心をもてるよう検討してほしい。

・岡谷は高齢化率が高く、さらに高齢化が進むことは間違いない。年配の方が元気に働くことで働き手の確保もできる。年配の方でも働けるような職場をつくれる支援を考えてほしい。

・病院にいいスタッフを集めるには働く医師や看護師、職員が意欲をもてる職場づくりが大事。

人口ビジョン・総合戦略について

・20代、30代が少ないので、若い人や女性の考え方、意見、今の岡谷市に対する見方とらえ方、これからの岡谷市に対する見方とらえ方をできるだけ反映させてほしい。

・無理のない人口目標を。

・日本全国が人口減少の中で、地方の競争により体力を消耗しかねない。人口ビジョンは冷静に事実を踏まえて策定を。

・現実を踏まえ、人口が減っても、まちが豊かになるという観点を総合戦略に入れてほしい。

・総合戦略を立てる中で、期間、時間軸を捉え、中長期的、短期的な視点を。

・諏訪地域が限られた財源、スタッフの中で、高いサービスを提供するために、広域連携を。

・人口の将来展望のところで各パターンの人口ピラミッドを見たい。絶対数も大事だが、どういう構成になっているのかが非常に重要。

その他

・税制の優遇などにより、大企業の本社や官庁などを地方に分散する取組を。

・市民の意見、要望について、周知、情報発信を図るべき。子育て支援サービス等の情報発信とあわせ、独自で情報発信する媒体の周知も必要。